

令和元年度がん検診精密検査未受診者に対するコール・リコールモデル事業・実績報告書

実施主体	島根県
実施機関	島根県環境保健公社
実施内容	2019年4月～12月に実施されたがん検診受診者のうち「要精密検査」の結果通知を受けた後、1カ月以上精密検査を受診していない者（未把握含む）に対し、個別通知により受診勧奨を行うとともに、受診状況の把握により精検結果未把握を減らし、精密検査受診率の向上を図る。
対象市町村	参加意向があった13市町村（松江市、安来市、奥出雲町、雲南市、飯南町、出雲市、美郷町、邑南町、江津市、浜田市、益田市、西ノ島町、知夫村）
対象検診	胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん
実施方法	コール1回目の結果が受診した者・受診意向のない者は終了する。受診予定ありの者・返信がない者・受診状況の記載はあるが情報に不備がある者に対し、2回目のリコールを行った。
集計期間	2019年4月1日～2020年3月17日 (2019年12月受診の対象者へは、コールのみ実施)
実施状況	別添資料参照

事業の成果

市町村における各種がん検診の精密検査受診率は、島根県がん対策推進計画の目標値90%以上には、乳がん検診を除き達していない。しかし今回のコール・リコールを実施したことにより、要精密検査未受診・未把握者と思われていた方が実際にはすでに受診していることが判明した。

また、コール・リコール通知による精密検査受診勧奨がきっかけとなり、コール・リコール後の精密検査受診率が大幅に上がる結果となった。精密検査受診の意向がない方の割合は著しく低く、未受診者への受診勧奨には、効果があることがわかった。

精密検査受診の意向はないと回答された理由として、がん検診別の特徴も見えてきた。胃がん検診においては「特に理由がない」という者の割合が高く、肺がん検診においては「異常がないと思う」という者の割合が高かった。肺の有所見は毎回要精密検査になる場合が多いことから、過去の精密検査結果で大丈夫という過信傾向ではないかと見えた。大腸がん検診においては「その他」理由の割合が高く、問題点も見ることができた。

事業の課題

平成 29 年度に実施した電話によるリコール作業に比べ、今回の通知による作業のメリットは、①受診者側の都合問わず一斉にアプローチできる、②電話によるコールのように不審がられない、③精密検査受診状況の実態や未受診・未把握の詳細を把握できる、④コール・リコール通知書記載の受診勧奨が精密検査受診のきっかけとなる事である。

デメリットは、①通知が来たことで医療機関に記載してもらおうと勘違いし医療機関へ提出された、②市町村へ持ち込まれる等の混乱があった、③返信の書き方がわからず電話による状況説明の対応が多数発生した、④自己申告による情報の不正確さ、⑤医療機関でもらわれた結果通知の本書を同封された、⑥不適切な精密検査受診がみえた方への対応、⑦すでに疾患で医療機関に受診している状況下で検診を受ける方への対応等、少数の方ではあったがそれぞれ課題も見えた。

今後の方向性

今回のモデル事業で精密検査未受診・未把握の実態を把握した結果、精密検査受診率向上は実際、ほぼ達成されていると見えた。しかし自己申告ほど不確実な報告はなく、医療機関からの結果返信による正確な情報をタイムリーに得ることは必須である。また、不適切な受診（がん疾患フォロー中であるのに検診を受けた、生理中なのに大腸がん検診を受けた等）や、不適切な精密検査（大腸がん精査に対する便潜血反応再検査、肺がん精査に対する胸部レントゲン撮影、次回の定期健診の結果みて自己判断で終了とする）に対する課題も出てきた。

精密検査未受診・未把握を分別し、それぞれの検診種別に適した勧奨の手法を確立することは効率的に行えるのではないかと考察できる。

医療機関から精密検査の返信がない理由については不明であるため、100%情報収集には至らないところの検討も必要と感じた。